

α-FLASHシリーズ 避難設備 (高輝度蓄光式誘導標識) 施工手順書

1. 適用範囲

1-1. 本施工手順書はα-FLASH シリーズ避難設備（高輝度蓄光式誘導標識）の施工手順書として適用する。

2. 施工上の注意事項

2-1. 製品の取り扱い

1) 埃・雨等によって劣化しない様な場所に保管し、乱暴な取り扱いはしない。

2-2. 気象条件

1) 温度の影響

製品自体は -20°C 以下でも性能に影響はなく、低温度でも製品裏面の粘着材の粘着性は低下しないが、被接着材の表面が湿潤した状態では接着しないため結露には注意する。

2) 風の影響

作業員に危険をおよぼさない限り、また貼りつけ作業が困難にならない限り問題は無い。

3) 湿度の影響

被接着面が湿潤状態になると粘着剤の機能が劣り易くなる為下地が十分に乾燥したのを確認してから施工に入るようにする。
被接着面が結露しなければ湿度の影響は特に無い。

2-3. 施工条件の管理

1) 貼りつけ位置・方向・高さ等を確認する。

2) 本施工に入る前に必ず予備的な墨出しをし、貼りつけ個所のマーキングなどを行い、現場管理者の承認を得るようにする。被接着面の障害物（突起物）があれば位置変更等を行ってよいかの承認を予め得るようにする。また取り外しことが可能な障害物（ビス止めの物、コンセント等）であれば許可の元に取り外し施工完了後に忘れずに復旧する。

3) 被接着面（壁仕上材）の適性を確認する。凹凸の大きい材料や多孔質の材料は 接着してもすぐにめくれてしまうので適さない。

このような材料の場合は、試験的にテープを貼ってみて接着強度を確認し、現場管理者に報告する。

- 4) 被接着面（壁仕上材）のひどい汚れ、めくれ、浮き、割れ等作業員が修復できない箇所がある場合、貼付け性能に影響をきたすので現場管理者に指示を仰ぐ。

2-4. 安全確保

- 1) 使用中の建物、物件、乗り物での施工は使用者の安全確保に留意し通行、使用の妨げにならないように迂回路の確保や施工時間を考慮する。

2-5. 完了検査・手直し

- 1) 施工完了した製品について浮きがないかを確認し、必要に応じて手直しを行う。

3. 施工手順

【使用製品】

- ・ α -FLASH シリーズ避難設備（高輝度蓄光式誘導標識）

【使用工具】

- ・ 墨出し道具（スケール、定規、鉛筆など）
- ・ ゴムローラー、ゴムヘラ、タオル

【保護具】

- ・ 保護眼鏡：特には必要なし
- ・ 保護手袋：特には必要なし

3-1. 下地処理・清掃

- 1) 被接着面は十分に乾燥していること。（コンクリート直貼り場合は基材内部まで十分乾燥させる。）
- 2) 被接着面に付着した汚れ、ほこりは除去する。また水洗する場合は十分に乾燥させる。油脂の汚れを落とす場合にシンナー等を使う場合は、再汚染、溶解、換気に注意する。
- 3) 被接着面に塗装、仕上げ材の浮きやはがれがあり、軽微な場合は除去もしくは補修する。

3-2. 墨出し

- 1) α -FLASH シリーズ避難設備（高輝度蓄光式誘導標識）が蛇行しないように墨出しは必ず行う。
被接着面を汚さないように、鉛筆などでポイントポイントにマーキングをしていく。

3-3. 貼り付け

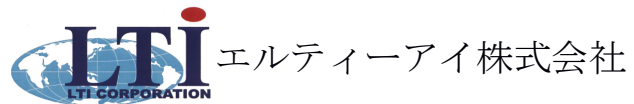
- 1) 接着力を高める目的でのプライマー等、下地調整のパテ等は使用しない。
- 2) 位置決め、仮置きの後、剥離紙を一部めくり被接着面に貼りつける。
一度貼りつけたテープをめくると著しく接着強度が低下するため、慎重に位置決めをおこなう。
- 3) 貼り付けの際はテープのなかに空気が残らないように一方向からマーキングにそって貼りつけていくようにする。
- 4) 貼りつけ後ゴムローラー、タオルなどでテープ表面を押さえる。このときテープ表面を傷つけないように注意する。

3-4. 検査

- 1) 蛇行の検査を目視にて行う。著しく悪い場合は貼りなおす。
- 2) 浮き、めくれの検査を目視にて行う。不具合部はゴムローラー等で再度押さえる。
- 3) α -FLASHシリーズ（高輝度蓄光式標識）は短時間でも蓄光するので、施工後、照度を落として蓄光状態の確認を行う。

4. 取扱い、保管上の注意事項

- 1) 湿気を避け、乾燥した場所に保管する。
- 2) 埃・雨水等がかからない場所に保管する。
- 3) 輸送に際しては、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を行う。



〒616-8294 京都市右京区梅ヶ畑引地町 34-4

TEL : 075-882-1515 FAX : 075-882-1516

E-mail : alpha@ltic.co.jp URL : www.ltic.co.jp